

発行所
 札幌市北区北15条西7丁目
 北大医学部同窓会
 TEL&FAX (011) 706-5007
 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
 https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



CONTENTS

- (1)・新しい年を迎えて ……浅香 正博
 ・年頭のご挨拶 ……畠山 鎮次
- (2)・計報 名誉教授
 田邊 達三先生(30期)を偲んで 平野 聡
 ・教授就任のご挨拶 古元 重和 橋本 孝之
- (3)・新世紀の医学に向けて(51) ……石黒 信久
 ・ズームアップ③ ……岩田 育子 矢部 一郎
- (4)・感謝の一漕ぎ ……伊達 渚
 ・フラテ111号発行のお知らせ
 ・フラテ祭2024開催報告
- (5)・ネーミングライツ(命名権)・パートナー募集の
 お知らせ
 ・百年記念館の利用について
- (6)・理事会・評議員会報告
 ・ご寄付の報告とお願い
 ・告知板
- (7)・新刊書紹介
 ・総会、第101期卒業生歓迎会のご案内
- (8)・事務局からお知らせ
 ・北海道医学会からお知らせ
 ・ご逝去者
 ・一面の写真説明 ・編集後記

「孤高のエゾリス」

医学科3年 ^{うえ むら} 上村 ^{しゅん すけ} 俊介 (第104期)



新しい年を迎えて

北海道大学
 医学部同窓会会長

^{あさ か} 浅香 ^{まさ ひろ} 正博 (48期)

新年おめでとうございます。秋口から年末にかけて大きな出来事がいくつもありました。昨年、マスコミを賑わしたのは、何と言ってもドジャースの大谷翔平選手の活躍ぶりだと思います。NBAで初めてのホームラン50本、盗塁数50の50-50を達成し、念願であったワールドシリーズも制してしまいました。このことにより日本人はアメリカ人より体力的に劣っていると長い間信じ込んでいたことが一気に覆されてしまいました。この成果は世界中に発信されており、大谷選手は世界で最も有名な日本人になったのです。これは一時的なものではなく、わが国の教科書にも掲載されるのにふさわしい国際的な業績であると思います。

10月には衆議院選挙が行われ、政府与党は記録的な敗北を喫し、過半数割れに陥りました。これまでのように自民党、公明党の与党だけでは、国会運営はスムーズに行かないことは必至であり、どの党とどのような連立を組むのが大きな問題となります。アメリカの大統領選挙ではトランプ氏がハリス氏に勝利し、大統領に返り咲くことが決まりました。バイデン大統領の路線とは全く異なる政治が行われることになり、アメリカ国内のみならず、世

界で起きている紛争にどのような影響をあたえるのか、そしてわが国への影響についても大きな心配事になっています。内外の状況の大きな変化を通じて、本年はどのような年になるのかを考えると、明るい予想がなかなかできません。

今年の夏も全国的に非常に暑く、北海道もエアコンなしでは生活できない状況になりつつあります。わが家の野菜、果物類の収穫にも明暗がありました。スイカ、ブドウ、イモ類の収穫量が減少した一方で、大根、キウイは大量に収穫できました。このような気候変動がいつまで続くのでしょうか。

昨年は、国内外で多くの重大な出来事があった年でしたが、同窓会の皆様はどのようにお過ごしになりましたか？同窓会の皆様のご援助によって完成した北大医学部百年記念館は予想以上に同窓会の方々に利用されており、同期生などの集まりではホテルと提携したケータリングも可能ですのでさらに多くの方々のご利用を期待しております。2025年の新年を迎えるにあたり、北大医学部同窓会の会員の皆様方のご健勝を心からお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長

^{はたけ やま} 畠山 ^{しげ つぐ} 鎮次 (66期)

明けましておめでとうございます。同窓会員の皆様におかれましては、新年をつつがなくお迎えのこと、お慶び申し上げます。

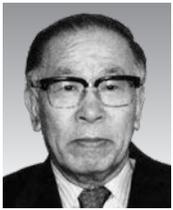
2026年の北海道大学創基150年に向け、「比類なき大学」を目指して、企画運営委員会が中心となり、具体的な150周年事業が始まり、式典に向けた多くのイベントが明らかになりつつあります。資金総長の推進力を期待するとともに、医学部・医学研究院としても最大限の努力と支援をする所存でございます。是非とも同窓会の皆様にも、50億円と設定しております寄附(創基150周年記念募金)に対して、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

2年前から北海道大学としての第4期中期計画・中期目標(SDGsの世界の先端レベルで貢献する大学)が決まり、医学研究院・医学院としても関連する項目に貢献することが求められております。その一つの基準である外部資金の獲得において、医学研究院としても北大病院と結束しながら、医学・医療の研究シーズを実装化することで、財源確保を進めております。しかしながら、特に国際情勢の不安定や円高の影響で、大学運営、特に各部局運営でたいへん厳しい財政状況と

なっております。本学医学部・医学研究院においても、施設や設備の老朽化・光熱費高騰などを主な原因とした赤字決算の現実に追い込まれており、教育・研究活動において、以前のような潤沢な予算を計上することが困難になっております。そのため、医学部内においても、オープンラボ等の使用料の値上げ、部屋のネーミングライツを募る、条件付きで外部組織への部屋の貸し出しなどの様々なアイデアを実行しております。これらの状況に対して、国、文科省、大学本部が一時的な救済措置を行っておりますが、現実的には対応が遅れております。この数年、このような状況を踏まえ、ご寄附いただきました同窓会の先生方もおり、誠に感謝しております。少しでも教育・研究活動を良くするために、同窓会の皆様にご協力いただければ幸いです。

これまでにも北大医学部において、日頃から同窓会の皆様からも様々な形で多大なるご支援をいただいております。この場をお借りして、同窓会にお礼を申し上げます。

新年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



訃報 名誉教授 田邊 達三先生(30期)を偲んで

消化器外科学教室II 教授 ^{ひらの}平野 ^{さとし}聡(64期)

北海道大学名誉教授 田邊達三先生におかれましては、2024年10月23日にご逝去されました。享年96歳でありました。

田邊先生は、1954年に北海道大学医学部医学科をご卒業以来、約40年間にわたり本学に在籍し、外科学第二講座教授、医学部附属病院長、医学部・医学研究科長を歴任され、本同窓会においては1996年度から2021年度の3期に渡り同窓会長を務められました。

田邊先生は、ご専門である心臓血管

外科学の臨床と研究に邁進され、日本における同領域の第一人者としてご活躍されたばかりでなく、後進の指導にも精力を注がれ、筆者を含め130名あまりの田邊門下の外科医が誕生しました。また、北海道大学病院の再開発、救急部や循環器外科の新設に取り組み、学部においては附属癌研究施設(遺伝子病制御研究所の前身)の設立など、組織の拡充に尽力されました。その間、日本外科学会、日本心臓外科学会、日

本血管外科学会など数々の学術集會を会長として主催され、心臓血管外科学はもとより、本邦外科学の発展に多大なる貢献を果たされました。

1993年に本学を退官された後はNTT東日本札幌病院長として臨床の前線に立たれ、地域医療振興財団などで地域医療の諸問題にも腐心されました。2002年に同院を73歳で退任された後も、昼夜兼行で執筆・講演活動を継続され、医療全般の歴史を自ら検索された多数の資料をもとに振り返りつつ、医療者に対する高邁なメッセージを発信し続けられました。特に、2019年10月に開催された北海道大学医学部創立100周年記念講演会では、『大志BBA (Boys be ambitious) に培われて開基100周年一大

志の伝統を築いた先人の足跡』と題し、本学の開学精神を軸に、医学部の歴史や先達の偉業をまとめ上げ、後進への熱いエールを込めた珠玉の講演をされたのも記憶に新しいところです。

田邊先生が退官の際に寄贈され、医学部学友会館「フラテ」2階ギャラリーに掲げられる書家小川東洲氏の揮毫『医の心』は、先生が医学に携わるものが具有すべき3S (Science(科学)、Skill(技術)、Spirit(心)) を今でも我々に問うているかに思います。先生の永きにわたるご功績に敬意を表し、多大なるご指導に感謝申し上げます、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教授就任のご挨拶



社会医学分野
医療政策評価学教室
教授

^{こもと}古元 ^{しげかず}重和
(会員2)

この度、令和6年8月1日付で、北海道大学大学院医学研究院社会医学分野「医療政策評価学教室」教授を拝命いたしました。謹んで新任のご挨拶を申し上げます。

社会医学系にはかつて予防医学講座と社会医療管理学講座の二講座が置かれていましたが、平成26年度よりこれを合体して社会医学講座とされました。その際、今後の必要性を見据え「医療政策評価学

教室」が創設されました。

私は、岡山県倉敷市の瀬戸内海に面した温暖な町で生まれ育ちました。平成9年に慶應義塾大学医学部を卒業、臨床研修を行ったのち、厚生省に入省しました。以来25年間、一貫して医系技官として行政官の道を歩んでまいりました。

医学生時代にアジアや南米にて現地の生活や医療に触れる機会があり、そうした経験が行政の道に進むきっかけとなりました。

厚生労働省では1~2年おきに部署異動があり、16のポストを経験しました。なかでも診療報酬改定を3回、介護報酬改定を2回担当いたしましたので、特に医療保険や介護保険の分野については幅広

い知識と経験を有しております。約20年前になりますが、ヘリコバクター・ピロリの検査を日本ではじめて保険適用する際の担当官だった私は、検査内容や検査対象者の範囲などを決める必要があり、当時教授でおられた医学部同窓会会長の浅香正博先生と連日連夜相談させていただき、無事に保険適用を実現することができました。今でも感謝しております。

さて、広大な北海道には、実に179もの市町村が存在しています。2020年には522万人だった道内の人口は、2050年には27%減の382万人になると見込まれています。規模が小さい自治体ほど人口減少率が高い傾向にあり、後期高齢者の増加、若者の減少が伴います。こうした傾

向は全国でも同様であり、いかに医療や介護を支えていくのか、他人事ではなく、まさに私たちに与えられた大きな課題であります。北海道、そして日本の取り組みを全世界が注目しています。

私は、これまでの経験を活かし、国民のみなさんにとってよりよい医療政策に向けたエビデンスの創出、そして今後の医療を担う人材の育成に向けて全力投球してまいりたいと思います。

歴史ある北大医学部同窓会の一員となれますことを大変光栄に存じております。同窓会のみなさまには、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



医理工学
グローバルセンター
教授

^{はしもと}橋本 ^{たかゆき}孝之
(会員2)

令和6年10月1日付で医理工学グローバルセンター担当教授を拝命いたしました橋本孝之と申します。私は平成11年に筑波大学放射線腫瘍科に入局し、主に筑波大学附属病院、静岡がんセンターで、また平成15年度には北大病院で1年間、放射線治療医として研鑽を積みました。筑波大学では長らく陽子線治療に従事して参りましたが、白土博樹教授にお声がけをいただいて平成25

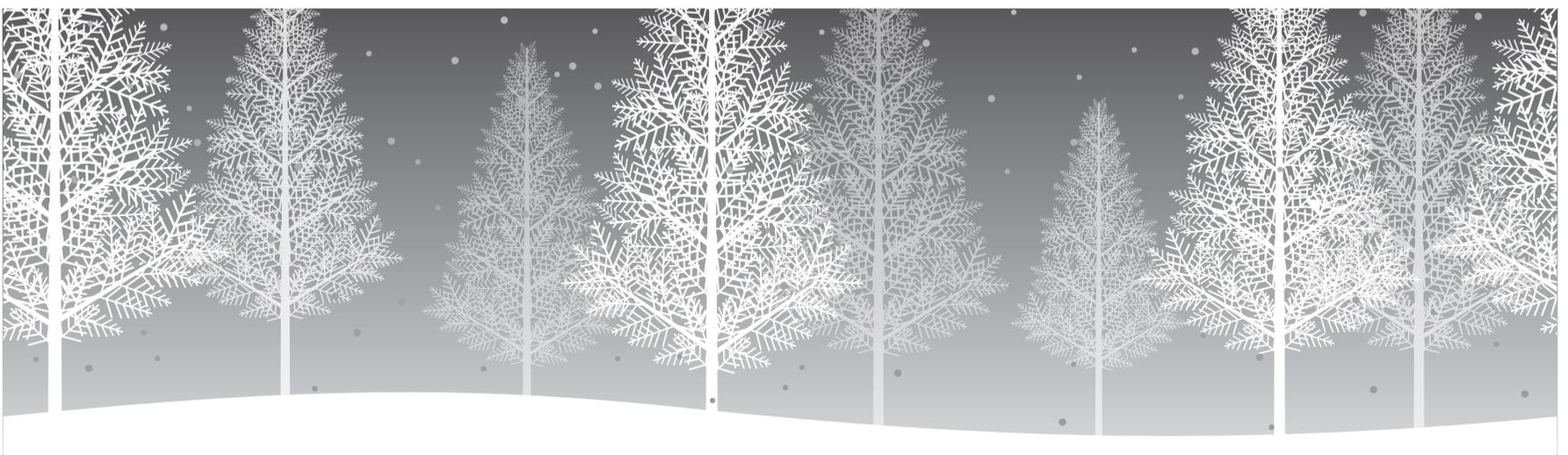
年3月に再び北大に異動となり、陽子線治療センターの立ち上げに参画いたしました。平成26年3月の開所以来、患者数は順調に増え、現在の青山英史陽子線治療センター長のもと、累計1000例を超え、今年も年間200人を超える勢いです。また陽子線治療のメリットが最大と考えられる小児腫瘍については、北大病院が全国で数少ない陽子線治療装置を有する小児がん拠点病院であることから、重点的に推進して参りました。

医理工学グローバルセンターは国際連携研究教育局(GI-CoRE)量子医理工学グローバルステーション(GSQ)を前身として2020年に創設されました。放射線治療部門と画像診断部門とがあり、ス

タンフォード大学など欧米やアジア等の世界トップクラスの研究者と研究開発を行い、また毎年世界中から多くの若手研究者や大学院生が参加するサマースクールやサマーインスティテュートでは、英語の講義により次世代を担う研究者を育成しております。医理工学院では量子医理工学コースと分子医理工学コースの大学院生に医学と理工学の連携の重要性について教育・指導を行い、放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う人材である医学物理士の育成も行っております。

私の信条は「まずはみんなが幸福に、最後に自分も幸福に」であり、「北大発

の研究で課題を解決し世界をリードする」という理想を堅持し、「新しい技術で患者さんを幸福に」を実践できる医療者でありたいと思っています。医理工学グローバルセンターや医理工学院において、医学研究院や病院の先生方、また他部局や国内外の施設との連携研究・教育・大型外部資金の獲得に尽力し、医学研究院そして北大全体の発展に精一杯貢献させていただき所存です。北海道大学医学部同窓会の先生方には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



新世紀の医学に向けて (51)

北大病院における感染制御～今までとこれから

北海道大学病院
感染制御部

いしぐろ のぶひさ
石黒 信久(60期)



1970年代後半、欧米ではMRSAが医療現場で深刻な問題となっていました。1980年代に入ると、わが国でもMRSAの分離率が増加しました。1990年代には「院内感染」という言葉がマスコミで頻りに取り上げられるようになり、感染対策への社会的要請が高まりました。こうした背景を受け、2001年3月に千葉仁志部長を中心とした「感染管理室」が設置され(2005年に「感染制御部」に改称)、院内感染に対して全職種が協力して取り組む体制がこの時期に確立しました。

2004年、石黒が感染管理室の専任医師として配属され、菊田英明部長および西村正治部長の指導のもと、さまざまな耐性菌やウイルスの伝播防止対策に取り組みました。この時期、全国の医療機関で多剤耐性緑膿菌(MDRP)のアウトブレイクが相次いでおり、当院も例外ではありませんでした。2002年から2006年にかけて3つの病棟の患者から分離された緑膿菌の8.9%～42.3%がMDRPでした。手洗いシンクがMDRP伝播のリザーバーであると考えて、塩酸

アルキルジアミノエチルグリシン(ADE)による手洗いシンクの消毒を毎日1回実施することで、アウトブレイクを終息させることができました。シンクにつながる配管の内部にMDRPが生息し、配管を通してシンク表面に移動してくる場所を消毒薬で叩く様子を「モグラたたき」に例えるとわかりやすいでしょう。現在も毎日1回のシンク消毒を継続しており、当院ではMDRPはほとんど検出されなくなりました(PMID: 38156227)。

2010年代に入ると感染症診療をサポートする大学病院の感染制御部門が増えてきました。当院でも2013年に「POCKET 感染対策マニュアル 診療ガイドライン」を発刊し、細菌検査室の協力を得て、薬剤部副部長と共に抗菌薬適正使用支援(Antimicrobial Stewardship)を開始しました。2018年には感染制御部に専従薬剤師が配置され、支援活動を一層充実させることができました。専従薬剤師の尽力により、病院機能評価(2024年3月受審)では抗菌薬適正使用に関する項目でS評価を取得することができました。

自施設の耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況を評価する際には、他施設や地域との比較が重要になります。2016年に稼働した「感染対策の地域連携支援システム(RICSS)」および2018年より運用が開始された「Japan Surveillance for Infection Prevention and Healthcare Epidemiology(J-SIPHE)」は医療機関の耐性菌検出状況や抗菌薬使用状況を一元的に集計・解析して、各施設にフィードバックを行う画期的なシステムです。当院もこれらの開発に積極的に協力してきました。現在、国を挙げて薬剤耐性(AMR)対策に取り組んでおり、J-SIPHEはその中核を担うツールとして、今後さらに活用されていくと期待されます(PMID: 37438092, 35671846)。

2019年に中国の武漢市で発見された新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は瞬く間に世界中に拡大し、社会を大混乱に陥れました。新型コロナワクチン接種者とCOVID-19罹患者が増えたことで重症化が抑えられ、世界はようやく日常を取り戻しました。一方、免疫が低下している患者にとってCOVID-19は依

然として脅威であるため、医療機関は日常診療の再開と院内感染防止の両立が求められます。下水中SARS-CoV-2 RNAサーベイランス調査を基準として、5類移行前後のCOVID-19罹患者を比較したところ、入院時の症状確認、有症状患者へのSARS-CoV-2検査、COVID-19罹患者の隔離、COVID-19罹患者の同室患者の隔離と観察、患者と医療者のマスクの5項目がCOVID-19の院内感染防止に重要であることがわかりました。一方、入院時SARS-CoV-2検査、COVID-19専用病棟の設置、面会禁止、外泊・外出禁止の重要性は低いことが判明しました(投稿中)。

新型コロナウイルス感染症の大流行は、私たちに大きな教訓を残しました。未知の感染症に備えるために、感染対策および感染症診療にかかわる人材の育成が社会的な課題となっています。そのためには、大学入学前、在学中、卒業後の教育が重要です。感染制御部もこれらの人材育成に積極的に関わっていく必要があると考えます。

ズームアップ③ 北大病院軽度認知障害センターについて

北海道大学病院
軽度認知障害センター
講師
いわた 岩田 育子

北海道大学大学院医学研究院
神経内科学教室
教授・軽度認知障害センター 部長
やべ 矢部 一郎(67期)



軽度認知障害センター設立の経緯

本邦の認知症患者は増加傾向にあり、2025年には認知症と確定診断される患者はおおよそ500万人を超え、ほぼ同数の軽度認知障害の発生が予想されています。人口における認知症者の増加に対して、予防と共生を目指し、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が推進されてきました。一方で疾患進行を抑制する効果のある薬剤の開発については、ワクチン療法、抗アミロイド抗体医薬、セクレターゼ阻害薬などが検討され実用化までに時間を要していましたが、2023年3月に、世界で最初のアルツハイマー病の病態修飾療法となるアミロイド抗体医薬が米国で承認されるに至りました。同年6月には第211回通常国会において「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(認知症基本法)が成立しました。この抗体医薬の実用化は他の疾患修飾療法の開発促進においても追い風となりますが、その一方で、血管壁のアミロイドにも反応するというアミロイド抗体医薬の特性により脳出血や脳浮腫などの合併症(ARIA)が比較的高率に出現する

ことが指摘されています。以上のようなことから、認知症に対して、これまでと異なる専門的かつ多診療科による複合的・高度な診療の提供が必要となり、2023年10月1日に軽度認知障害センターが設立されました。そして、同年12月20日に本邦でもアミロイド抗体医薬が上市され、同時にアミロイドPET等の関連諸検査が保険収載となりました。これらの経緯のなかで実務者会議を重ね、2024年1月より実際の診療を開始しました。

軽度認知障害センターの診療方針

軽度認知障害センターの運営における骨子として、以下の診療方針を制定しました。

1. 正確な認知症原因病態の診断
2. 病態修飾療法の円滑な導入と有害事象対応
3. 適切な進展予防指導の実施
4. 地域医療連携体制の構築
5. 認知症研究の推進
6. 認知症リテラシーの向上への貢献

軽度認知障害センターの構成員

2023年10月1日発足時は、部長に脳神経内科・教授 矢部一郎、副部長に精神科神経科 久住一郎教授が就任しました。2024年4月現在、脳神経内科・精神科神経科、脳神経外科、放射線診断科、核医学診療科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、高齢者歯科、また院内部署として看護部、栄養管理、医療・ヘルスサイエンス研究開発機構、ダイアベティスマネジメントセンター、医事課、医療支援課によって構成されています。久住一郎教授の退職に伴い、2024年4月1日付で、副部長に放射線診断科・核医学診療科 工藤與亮教授および脳神経外科 藤村 幹教授が就任しました。

軽度認知障害センターの診療状況

認知症診療を行う医療機関からの紹介患者を、脳神経内科と精神科神経科にて初診患者として診療を開始しました。認知症疾患の確定診断と、リスク因子となる生活習慣病の他、聴力、口腔内環境、歩行解析、食事調査なども評価し、抗体医薬の投与が該当する症

例の発見や、症状進行抑制のための治療および指導を行なっています。2024年9月末時点で60名の診療を行い、16名が新規抗体医薬の適応と判断しました。実際に投与を開始した患者に対し、ARIAの有無と認知症進行状況を含めた慎重な経過観察及び、6ヶ月毎の認知機能評価を遂行中です。

今後の展望

適正な治療方針の提案と、安全な治療、患者指導を主とした診療を行い、2024年9月には2剤目となるアミロイド抗体医薬であるドナネマブが製造販売承認されました。また、アルツハイマー病をはじめとした複数の認知症・神経変性疾患で蓄積を認めるタウをターゲットとするバイオマーカー技術の発展や疾患修飾医薬の出現も予想されます。現在もAMEDを含む複数の共同研究研究の場として活用いただいております。認知症疾患に対し、北海道大学内に存在する認知症研究拠点(拠点代表 矢部一郎)等と連携し、実臨床を基盤とした研究の場として展開していく予定です。



感謝の一漕ぎ

医学科3年 **伊達 渚**(第104期)



医学系の部活に入っていると必ず耳にする「東医体」。東医体優勝を最大の目標に据えているところが多いと思います。もちろん医学部ボート部も例外なく目標は優勝でした。

昔からボート部はキツイ部活として有名でした。朝一からの練習ということもありますが、一番は練習内容だと思います。ボートは繰り返しの運動なので、野球のように打撃練習、守備練習に分けることがありません。只管に「長く、強く」漕ぐのみ。つまりずっとフルスイングしているようなものです。フルスイングしていく中で、少しイメージを変えて感覚をみたり、漕手の順番を変えてみたり、船のセッティングを変えてみたりして徐々にいい感覚を模索していきます。しかし、単調な動きの繰り返しでだんだんと集中が切れてきます。でも決して切らしてはいけません。なぜなら1人で漕いでいるわけではないからです。仲間を鼓舞して全員で同じ方向を向くとより遠くへ行けるような気がするのです。

さて、今年の東医体を語る上で、昨年の東医体を語らないわけにはいきません。昨年の東医体ボート競技は北海道で開催され、我々としてはいつも練習している良く慣れた場所での大会となりました。私にとって3年目で初めての東医体ということと、地元開催ということもありとても緊張していました。結果は2位でした。1位の自治医科大学には予選から1度も勝つことができず苦汁をなめる結果となりました。大会後に主将を引き継いだ私は、この辛い経験から必ず優勝してやるという強い思いを持つようになりました。

大会が終わって秋頃から来年度の構想を始めました。色々な資料を作ったり、レースで勝つための1年間のスケジュールを考えたりする時間はとても幸せでした。これまでは、マネジメントなど何も考えずに、純粋に練習に打ち込むことが楽しく感じていましたが、主将として、試行錯誤して強いチームを作り上げることもとても有意義で楽しいと感じました。沢山の困難があ

りましたが、昨年味わった悔しさと勝利への欲求が前へ進む力をくれたと思います。

4年目の東医体はボート競技のメッカ、戸田漕艇場で行われました。前回優勝した2019年も戸田でした。優勝するならここしかない、そう言われている気がしました。体調不良になったりしましたが、なんとか決勝まで上がることができました。やはり前回王者の自治医科大学は決勝まで駒を進めてきていました。昨年は1度も勝てなかった相手ですが、今年は勝つイメージがはっきりとしていたため驚くほど冷静でした。そのおかげで冷静にレース運びができたと思います。誰もいないゴール

に飛び込んだ光景は一生忘れることがないでしょう。最高のレースでした。沢山努力してきたからこそ、実った時の喜びはひとしおでした。

ボートはキツイスポーツです。そして特殊なスポーツでもあります。速さを競う種目なのにゴールを見ず、後ろ向きに進みます。見えるのは自分たちが進んできた航跡と仲間の背中だけです。そこが面白くて奥深いのです。

医学部ボート部の連綿と受け継がれてきた歴史のなかに自分の名前があることを誇りに、これからも邁進していこうと思います。どうもありがとうございました。



フラテ111号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部



同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「フラテ110号」を無事発刊することができました。

現在は2025年3月発行予定の「**フラテ111号**」を発刊準備中です。本号の「フラテ各地に行く」のコーナーでは福岡にいかせていただき、卒業生の先生とお話をさせていただきました。その他のコーナーについても皆様に興味を持っていただけるような記事をたくさん載せておりますのでぜひご購読いただければと思います。

近年は若い先生方からのご購読が減少傾向にあります。興味を持って頂けた先生がいらっしゃいましたら、是非ご購読ください。

110、111号を含め、フラテ冊子をご購入くださる方は、同封の**払込用紙**ま

たは、**QRコード**からお支払いをお願いいたします。電話でのお申し込みは受け付けておりません。すでに110号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。



おすすめ!バックナンバーもあります!久しぶりの購入や、ご自身の在学中のフラテを読みたい方もぜひこちらから

読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。ご寄稿をお待ちしております。○内容・形式・字数:自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

お知らせ

フラテ編集部では編集部のOB・OGの先生を探しております。もしいらっしゃいましたら下記のメールアドレスにご連絡いただければと思います

フラテ編集部
E-mail:frate.med@gmail.com
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内

フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿いただけます。多くの学生が

フラテ祭2024開催報告

フラテ祭実行委員会事務局

第17回目となる「フラテ祭2024」は、北海道大学ホームカミングデーと同日の9月28日(土)に医学部学友会館フラテホールにて開催しました。同窓生や在学生のご家族をはじめとする関係者の皆様方、67名にご参加いただきました。

本間明宏フラテ祭実行委員長の挨拶の後、2019年以来となる見学ツアーでは、医学部と病院のコースに分かれ、講義室や実習室を見学しました。

講演会では浅香正博医学部同窓会長からの挨拶、2023年12月に日本学士院会員に選出された白土博樹教授への花束贈呈に続き、島山鎮次医学部長、渥美達也北海道大学病院長による講演が行われた後、現役医学部生(フラテ編集部、アンサンブルフラテ)による活動発表が行われ、医学部の現状を発信

しました。続いて学外でご活躍されている先生による特別講演が行われました。九州大学大学院医学研究院ウイルス学分野



福原氏による特別講演の様子

の福原崇介教授から「北大だから推進できた新型コロナウイルス研究」と題した講演が行われ、盛会のうちに終了しました。

今年度も多くの方のご支援とご協力をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。



医学部ツアーでの百年記念館見学の様子

ネーミングライツ(命名権)・パートナー募集のお知らせ

このたび医学部では、所有する施設等に別称(愛称等)を付与させるネーミングライツ(命名権)を募集することになりました。これは、**医療法人・企業の皆様**のご支援を通じて、医学部の発展と未来の学生たちのための環境整備を目指すものです。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 対象施設 | 医学部図書館 | 臨床講義棟 |
| ①医学部食堂 | ②第1講堂 | ④第3講堂 |
| | ③第2講堂 | ⑤第4講堂 |
| | | ⑥臨床大講堂 |

募集期間：3年以上5年以内(5年を上限として再契約可)

皆様のご支援が、次世代の学生の教育環境をより良いものにする大きな力となります。ぜひ、この機会にご応募を検討いただきますようお願い申し上げます。

北海道大学医学部長
畠山 鎮次

(問い合わせ先)

北海道大学医学系事務部会計課

TEL:011-706-6955

E-mail:k-hosa@med.hokudai.ac.jp

ネーミングライツ(命名権)・パートナー募集

北大医学部では、施設を有効に活用し、新たな収入の確保と学生に最高水準の教育・研究環境を提供し続けることを目的として、**医学部施設の命名権者(ネーミングライツ・パートナー)**を募集しております。条件(金額や期間)、愛称などについて、**医療法人・企業の皆様からのご提案**を随時お受けしております。

ネーミングライツとは

医学部施設に、企業名や商標名等を冠した愛称を設定することができる権利です。

対象施設

- ①医学部食堂 ②第1講堂(医学部図書館) ③第2講堂(医学部図書館)
④第3講堂(臨床講義棟) ⑤第4講堂(臨床講義棟) ⑥臨床大講堂(臨床講義棟)

ネーミングライツのメリット

知名度向上

本学の在学生、就職希望者、産学連携を希望する研究者、地域の方々への知名度向上が期待できます。

社会貢献

ネーミングライツ料は、医学部の教育研究環境の向上に活用されます。

イメージ向上

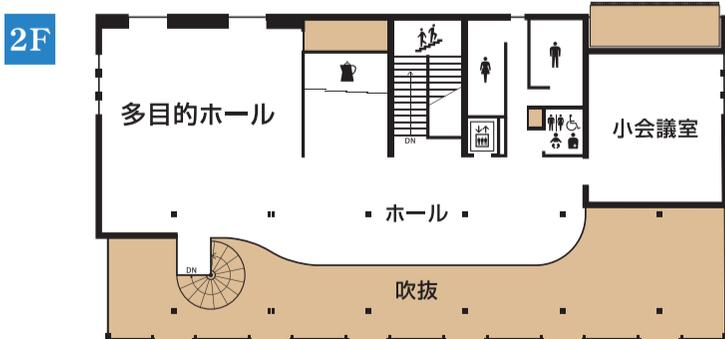
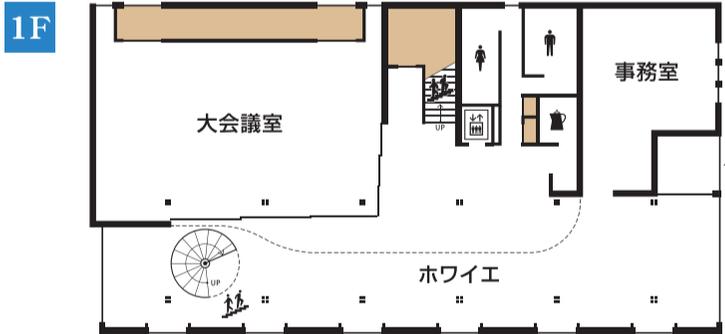
本学のネーミングライツ・パートナーとして、企業の社会的なイメージアップにつながります。

北海道大学のネーミングライツのご案内は、こちらをご覧ください。▶



百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、見学、利用に際して事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当まで直接ご連絡願います。



1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエとの間は大きな引戸になっており、解放してより大きな空間として利用することができます。

【設備】

椅子/会議用机/電動スクリーン/
液晶プロジェクター(固定)/
ワイヤレスマイク

2F 多目的ホール

[収容人数：42名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子42脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

【設備】

椅子/電動スクリーン/
液晶プロジェクター(固定)/
ワイヤレスマイク

2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行います。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

【設備】

椅子/会議用机

お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当

TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286

E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp

【受付時間】月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く)午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

理事会・評議員会報告

○日時 令和6年11月12日 (火)
18:30 ~ 19:30

○場所 医学部百年記念館 大会議室

【理事会】 理事11名、監事2名

【評議員会】 評議員54名

(出席者10名、委任状提出44名)

会議に先立ち、本日の理事会・評議員会は、協議事項及び報告事項が同一であることから、合同で開催することが提案され、これが了承された。

会議に際して浅香会長から挨拶がありました。

引き続き新任の役員から自己紹介がありました。

○議事

【協議事項】

- 令和5年度会計収支決算(案)について
会計収支決算状況、特別会計預金状況及び各期別会費納入状況について

て説明後、審議の結果、これが了承された。

- 令和5年度会計監査について
会計監査結果について説明後、審議の結果、これが了承された。

- 同窓会新聞の発送について
同窓会新聞の発送方法の見直しについて背景、編集委員へのアンケート結果、現状の問題点、検討案について説明とともに、今後の発送方法についての検討案が提示された。

審議の結果、発行回数は年3回とし、「会費のコンビニ振込用紙・住所変更葉書」の封入を年1回(5月分)のみ普通郵便で送付し、他の2回(9月分・1月分)は新聞のみをゆうメールで発送することとなった。

実施時期は令和7年度5月分から実施する。

- (その他)
(1)会費の収納状況及び滞納会費納入について

評議員から会費滞納者の会費徴収方法について要望があった。また、会費収納率が年々低減しているため、会費の収納率の改善等について検討を行うことになった。

【報告事項】

- 評議員、予備評議員の一部交代について
令和6、7年度の2年間を任期とする評議員、予備評議員の一部交代について報告されました。

- 令和6年度庶務、事業報告について
庶務報告として、今年度の定時総会を来年2月10日(月)医学部百年記念館で開催することが報告されました。

また、卒業生歓迎会は午後7時から1階大会議室で開催することが報告された。

引き続き、事業報告として、同窓会新聞の発行状況、同窓会員名簿の刊行及び進捗状況について報告され

ました。

- 令和6年度会計収支中間報告について
9月末日現在の会計収支状況について報告されました。

寄附者の報告があり、寄附者の報告と感謝状の写真を同窓会新聞1月号に掲載することが報告された。

- 令和6年度以降の会費免除について
会則第6条第2項に基づき、昭和44年卒業の第45期生の会員は令和7年度以降の会費が免除となることが報告されました。

- (その他)

- (1)ネーミングライツ・パートナー募集の広告掲載について

田中理事から、医学部では教育研究財政の改善策の一環として、医学部が所有する施設の別称を付与させるネーミングライツ(命名権)を募集しているとの報告があった。

以上

ご寄付の報告とお願い

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。
令和6年9月9日 北大医学部50期会 様 金500,000円
以上、ご報告申し上げます。誠に有り難うございました。

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。
電話：011-706-5007 E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp



告知板

<教授就任挨拶>



富山大学医学部
第一内科教授
かとう まさひろ
加藤 将 (79期)

2024年10月1日付で富山大学医学部第一内科教授を拝命しました。私は、2003年に北大を卒業後、北大第二内科に入局し、スイスチューリッヒ大学病院への研究留学などを経て、リウマチ・膠原病に

関する臨床・基礎研究、そして教育に従事してまいりました。この度、小生が18年生まれ育った故郷、北陸・富山の地で新たな挑戦をいたします。おおよそ四半世紀にわたる北海道での貴重な経験を活かし、富山の医療へ貢献するとともにアンメットニーズに応える研究を行ってまいります。皆様には今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

<学内・院内人事異動>

<辞職>

- | | | |
|------------|------------|-----------------------------------|
| 令和6年 8月31日 | 内藤正一郎(91期) | 循環器内科 特任助教(北見赤十字病院) |
| 9月30日 | 加藤 将(79期) | リウマチ・腎臓内科 講師
(富山大学医学部第一内科 教授) |
| | 大原 克仁(81期) | がん遺伝子診断部 特任助教
(札幌孝仁会記念病院 診療部長) |
| | 舘 弘之(91期) | 整形外科 特任助教(北海道医療センター) |

<任期満了>

- | | | |
|------------|------------|---------------------------------------|
| 令和6年 9月30日 | 本多 昌平(74期) | 消化器外科学教室 I 特任研究准教授
(昭和大学江東豊洲病院 講師) |
|------------|------------|---------------------------------------|

<採用>

- | | | |
|-----------|------------|------------------------|
| 令和6年 8月1日 | 古元 重和(会員2) | 医療政策評価学教室 教授 |
| 10月1日 | 大野 陽介(82期) | 消化器外科 I 助教 |
| | 有賀 伸(84期) | がん遺伝子診断部 特任助教 |
| 令和7年 1月1日 | 大野 正芳(83期) | 光学医療診療部 助教 |
| 1月15日 | 甲谷 太郎(89期) | 循環器内科 助教 |
| 2月1日 | 杉野 弘和(91期) | 腫瘍病理学教室 助教 |
| 4月1日 | 佐藤 典宏(61期) | 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 特任教授 |
| | 加藤 隆弘(会員2) | 精神医学教室 教授 |

<昇任>

- | | | |
|------------|------------|---------------------------------|
| 令和6年 10月1日 | 橋本 孝之(会員2) | 医理工学グローバルセンター 教授
(同センター 准教授) |
| 令和7年 1月1日 | 安部 崇重(71期) | 腎泌尿器外科学教室 教授(同教室准教授) |
| 2月1日 | 加納 里志(75期) | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 准教授(病院講師) |

<配置換>

- | | | |
|------------|------------|---------------------------------|
| 令和6年 11月1日 | 和田 雅孝(81期) | 消化器外科 II 特任助教
(医学研究院 特任研究助教) |
| 12月1日 | 宮 愛香(会員2) | 糖尿病・内分泌内科 特任助教(同科 博士研究員) |

<北大医学部60期卒後41周年同期会>

日時：令和7年8月16日(土) 18:00から 場所：札幌パークホテル

<令和6年度 北大医学部 東京フラテ会総会のご案内>

令和6年度の東京フラテ会総会は、私学会館に場所を変えて開催する予定です。同期知友をお誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：令和7年3月8日(土)
午後5時受付開始
会場：アルカディア市ヶ谷 私学会館
(JR市ヶ谷駅 徒歩2分)
東京都千代田区九段北4-2-25

Tel 03-3261-9921
会費：12,000円
講演会：午後5時30分開始
第1部：岩見大基先生(76期)
自治医科大学 腎泌尿器外科学講座 腎臓外科部門教授
自治医科大学附属病院 腎臓センター外科部門センター長
移植・再生医療センター 副センター長

第2部：北海道大学総長 寶金清博先生(55期)

議事：午後6時40分から7時00分
懇親会：午後7時00分から

参加方法：右図のQRコードから、東京フラテ会参加専用フォームにて参加申し込みをお願いします。ご不明な点があれば下記までお問い合わせ

してください。
東京フラテ会 会長 畠山 昌則(57期)

【お問い合わせ】
事務局 小西 竜太 (78期)
E-mail：konishi.ryota@gmail.com



＜令和7年 北大医学部 関西フラテ会総会のお知らせ＞

関西フラテ会会員の皆様、一年ぶりの総会開催となります。
講演は69期の松田直之先生です。ふるってご参加いただき、旧交を温めて下さい。
関西フラテ会会長 山中 幹基 (67期)

記
日時：令和7年3月1日(土) 午後5時～
場所：ホテルグランヴィア京都3階

今昔の間
〒600-8216 京都市下京区烏丸通
塩小路下ル JR京都駅中央口
TEL:075-344-8888 (大代表)

講演：名古屋大学大学院医学系研究科
救急・集中治療医学分野教授
松田直之先生 (69期)

演題名：「Global Sepsis Alliance ～
敗血症の病態と国際活動～」

会費：一般 15,000円、研修医 5,000円

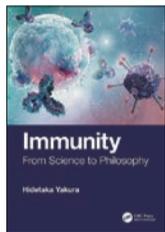
問い合わせ：今井 必生 (82期)
大橋クリニック
e-mail: ihits@hotmail.com

参加登録：2月15日(土)までに、右記QRコードor URLから登録をお願い致します。



<https://forms.gle/UUyLHZR3m6CYaNF5A>

新刊書紹介



「Immunity: From Science to Philosophy」

やぐら ひでたか
矢倉 英隆(48期)
CRC Press ハードカバー ¥15,970 Kindle版 ¥8,798

第一病理(現統合病理)出身の免疫学者であり、敬愛する先輩でもある矢倉英隆先生が英文の本を出版された。本書は、先生が一昨年の春に出版された「免疫から哲学としての科学へ」(みすず書房)をもとに執筆されたものであり、原著の内容に軽微な修正が加えられている。日本の研究者が専門分野の書籍を専門家向けに英文で執筆することはめずらしくないが、本書のように幅広い読者を対象とした書物が日本人の手によって英文で出版されることは少ない。まずは、このような書物を

出版された矢倉先生のご努力と学識、語学力に敬意を表したい。
本書では、免疫学の生い立ちから今日的課題、今後の課題までが明快に、しかも興味をそそられる語り口で提示されている。特に、免疫学の重要概念がどのように確立されたかについて歴史的経緯を踏まえて詳述されており、免疫学の入門書としても秀逸である。免疫システムが微生物からヒトまで普遍的に存在することが語られたのち、議論の主題は「免疫の本質」へと移り、哲学的な視点から考察が加えられる。

この部分は免疫学者としての活動に区切りをつけたのち、フランスに渡って哲学を研究された先生の面目躍如たるところである。科学の成果を哲学の視点で再考し、物事の本質を追求する。本書で示されたこの姿勢は実に示唆に富んでいる。
なお、本書の原典となった「免疫から哲学としての科学へ」については、阿戸学先生(68期)が一昨年、本欄に書評を寄稿されているのでご参照いただきたい。
(56期 笠原正典)



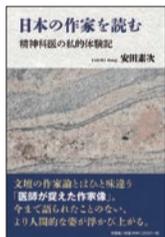
「診療の片隅で」
精神科医の私的体験記

やすだ もとじ
安田 素次(54期)
文芸社 ¥1,210

著者の安田素次先生は精神科医で、総合病院精神科医療施設である市立札幌病院精神医療センターの部長(旧：同病院静療院の院長)をおつとめになった方です。ご専門は老年精神医学・自殺学で、定年で公職をひかれた現在もなお臨床の精神科医として第一線に立っておられます。先生は文学にも造詣が深く、本書でも例えばトルストイの「クロイツェル・ソナタ」を取り上げていますが、そこでも老年精神医学の視点が見え隠れします。本書の中心

となっている老年期の患者さんとのやりとり・臨床的な気づきはさすがとうなるところで、同じような症例を診ていても全く気づかなかった老年期の人々の深い心の痛みや経験について、よく触れておられると思う文章が本書全体に見られます。特に圧巻なのは老年期症例の精神症状の性差をめぐる3つの論考で、物盗られ妄想・嫉妬妄想・パートナー喪失などでの性差が興味深く観察・分析され、さすがにこの領域のご専門だなとうなずきます。さらに話題

は広がって、ご自身のこれまでのご経験や今を生きる人々の心の機微に触れておられ、一つ一つがちょうど読みやすい長さですので、肩がこらずに、しかしピリリとする刺激を受けながら楽しんで読むことができます。読後の心の中に爽やかな風が一陣吹き抜けていきます。診察室に置いていただいて、診療の合間に安田ワールドに浸っていただきたいものと思います。
(46期 大宮司 信)



「日本の作家を読む」
精神科医の私的体験記

やすだ もとじ
安田 素次(54期)
文芸社 ¥1,430

同窓の精神科医、安田素次先生による最近のご著作です。古くは紫式部から今をときめく村上春樹まで13人の日本の作家が取り上げられています。平坦な紹介というよりは、先生の鋭い感性に基づいた記述が特徴であり、一つ一つの論考は長くはありませんが、読む者にはなかなか刺激的です。また文体やレトリックが、それぞれの作家に合わせて、架空の対談だったり、場合によっては裁判場面作家を被告席に座らせたりしている記述も興味深い

ところです。安田先生のご専門は老年精神医学・自殺学ですが、作家・作品に精神医学の視点から接近し、創造性の根拠に迫るという病跡学の視点もお持ちです。本書ではこうした専門的な視点はことさらには強調しないと前書きで断ってはありますが、一つ一つの論述の中に、わかりやすいですが、精神科医ならではの独特の視点が散見され、本書の魅力の一つとなっています。先生は、医学部にお入りになる前に、外語大学でロシア語を専攻され、文学

に造詣が深く、作家論をお書きになる大事な文学的素養をお持ちです。そうした中で書かれた本書の作品の幾つかは北大精神科同門会誌に掲載され、多くの読者を獲得し、さらには推薦されて同門会賞を受賞しておられます。作品のみでなく、作家の生き様までが簡潔にまとめられています。安田先生の感性を楽しみながら、診療の合間に手に取っていただきたい本です。
(46期 大宮司 信)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2025年3月21日(金)までにお送りください。
【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。
【書評執筆】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp
【掲 載 号】 新聞181号(5月号、6月上旬頃発送開始予定)

総会、卒業生歓迎会のご案内

同窓会総会

令和6年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。
日 時：令和7年2月10日(月)
午後6時より
会 場：北海道大学医学部百年記念館(2階) 多目的ホール

所在地：札幌市北区北15条西7丁目(北大構内)

議事

1. 協議事項(予定)
 - (1)令和5年度会計収支決算
 - (2)令和5年度会計監査
 - (3)その他

2. 報告事項(予定)

- (1)庶務・事業報告
- (2)令和6年度会計収支中間報告
- (3)その他

総会終了後、令和6年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

卒業生歓迎会

総会終了後の午後7時より、(1階)大会議室において、第101期生の卒業生歓迎会を開催します(参加費は無料)。
ご参加いただける方は、電話又はメールにより1月20日(月)までに同窓会事務局へご連絡ください。

事務局からお知らせ

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局へ送ってください。なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

○送付先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部百年記念館内
北海道大学医学部同窓会事務局
【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」宛にしてください。
※月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）：10時～16時まで

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。
○会費納入は次のいずれかの方法によります
①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込 ※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。
年度途中でも加入出来ますので、同窓会事務局または取扱代理店にお問い合わせください。

〈同窓会事務局〉
電話：011-706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
〈取扱代理店〉
株式会社第一成和事務所
〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋馬喰町ビル3階
フリーダイヤル：0120-100-492
E-mail: koumu@d-seiwa.co.jp



北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の発展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和6年は第99巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。
本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（令和6年11月30日現在）

- ・一般会員 556名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員 73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 163名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。
なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。
入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
（北海道大学医学部百年記念館内）
電話：011-706-5007
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp
<https://www.hokkaido-med-society.org/>



ご逝去者

新聞179号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2018年	木村 牧子	41	9月14日	青柳 芳夫	34
			9月19日	西村 秀穂	51
1月 8日	田代 正昭	30	9月20日	佐々木 信一	53
2023年			9月24日	福井 清美	36
	8月12日	小谷 富男	50	9月28日	村上 林兒
2024年			10月 6日	村島 義男	32
	2月11日	後藤 靖彦	34	10月10日	前川 勲
4月 8日	伊藤 敦之	43	10月19日	大和田 宏	30
6月15日	尾山 洋太郎	37	10月23日	田邊 達三	30
7月11日	高畑 直司	43	10月28日	三部 重喜	専2
7月24日	浜田 稔	33	10月30日	高杉 佑一	36
8月10日	関根 大正	54	11月 2日	坂本 博	38
8月12日	浅香 悦男	専7旧	11月 4日	高木 正光	32
8月30日	橋本 正人	38	11月26日	安藤 譲二	49
9月 9日	諸熊 幹雄	38	12月 8日	朝倉 幸子	37

一面の写真説明

「孤高のエゾリス」

医学科3年 上村 俊介(第104期)
メインストリートを北へ進んだ先に、静かな公園のような場所がある。札幌農学校第二農場と呼ばれるその場所は、いつも人気が少ないゆったりとした時間が流れている。喧騒から逃れるように僕はよくこの場所を訪れるのだが、

たびたびそこで先客に鉢合わせる。小さなエゾリス達。
ある冬の朝、積もった雪が音という音を吸収して一際静かになった第二農場で、ふかふかの新雪の上で戯れるリス達に出会った。人間の僕に驚くこともなく、むしろ近寄ってきてクルミをよこせとせがんでくる。その瞬間僕は、種の垣根を超えて、古参の彼らに頭を垂れるただの新米に過ぎないことを知るのだった。

編集後記

この編集後記を書いているのは2024年11月末です。2024年は、1月1日の能登半島地震、1月2日の羽田空港での飛行機炎上事故で始まり、多くの国民が不安に思ったのではないのでしょうか。そして、毎年繰り返される記録的な猛暑と豪雨、政治家の裏金問題、いつ終わるかわからない中東およびウクライ

ナとロシアの「戦争」と暗いニュースばかりの一年でした。そのような中だからこそ、大谷翔平選手の大活躍は日本にとって、数少ない喜べるニュースでした。来年こそは良い年になりますようにと毎年毎年繰り返され、書くのも恥ずかしいのですが、心の底からそう思っているのは私だけではないと思います。(64期 南須原 康行)